

平成 28 年度 立川市教育委員会施策の点検・評価 外部評価員評価表

<外部評価員氏名 朝岡 幸彦 >

10 いつでも、だれでも学べる身近な学習環境の整備

市民交流大学を中心に講座数及び参加者数の増加が見られ、行政企画講座への市民参画の度合いも高まりつつあることが評価される。こうした数値だけに注目するのではなく、交流大学企画運営委員会の活動が「市民の目線」で主体的に取り組まれつつあることも高く評価したい。また、タイミングよく平和・人権学習事業に焦点を合わせた事業を重点化することも優れており、「A」評価に相当するものと言える。

11 市民ニーズに合わせた生涯学習情報の提供

従来の紙媒体中心の情報提供から ICT を積極的に活用して若い世代にも身近な情報提供を試み始めていることは評価される。その意味では、「課題」にも記されているように、障がいのある人など情報から阻害されやすい人たちへの配慮が必要と思われる。また、ICT の活用は情報の双方向性に踏み込むことで一層価値を増すものであり、職員だけでなく市民主体の情報発信の方法も模索される必要があるだろう。

12 地域人材と学習施設の有効活用

学校支援ボランティア事業を柱に「学校教育と社会教育を一体化して学びを推進する」という戦略は優れており、国が進める「学校支援地域本部事業」の核となるコーディネーターの養成・配置にも貢献するものと思われる。「今後の方向性」にも記されているように、順次、導入する学校を増やしていくことが求められる。その際に、地域学習館との連携や学校ボランティアの研修なども取り組まれることを期待したい。